

岐阜県立大垣西高等学校

小中高が一体となった岐阜県西濃地区における在来タンポポの保護活動を通じた環境教育

タンポポ研究の空白地帯に挑む

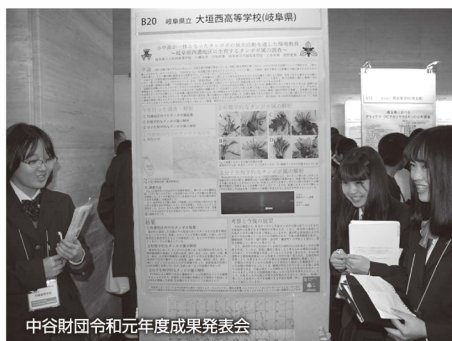
タンポポ属にとっても特殊な場所

古くから交通の要衝であり、関ヶ原の戦いの舞台にもなった岐阜県西部の西濃地区は、タンポポ属の生態に関しても特殊な場所だ。中山道を中心に山間の街道が多く交差し、生育状況が複雑で実態がわかりにくいからだ。

そんな西濃地区にある岐阜県立大垣西高等学校では、地域の小中高校と共同でタンポポ属の研究に挑んでいる。しかし、上記の理由から西濃地区は「タンポポ研究の空白地帯」といわれるほどの難所だ。研究は生物を選択科目とする2年生の一部が「総合的な探究の時間」を使って進めている。メンバーを突き動かすのは、「自分たちの研究結果を通じて、地域の人たちに環境問題に向き合ってもらいたい」（中矢百音さん）という思いだ。



タンポポ属の研究に挑む、大垣西高校2年生活動班のメンバー



中谷財団令和元年度成果発表会



地域の環境活動に役立てたい

研究者として着実に成長

当初は、PCRで増幅した外来タンポポのDNAを解析しようとして「電気泳動法を試みても良好な結果がなかなか得られない」（堀友里愛さん・森永凜音さん）といった苦労が多かったが、次第に「実験方法を改良したら結果が出た」（川瀬友芽さん）、「PCR法や電気泳動法など以外の研究手法も知りたいと思うようになった」（川地珠夢さん）と、研究の楽しさを感じるようになった。担当の今井丈暁教諭も「結果が出ると自信がついてくるようで、自分たちで、より早く、正確に実験できる工夫を模索するようにもなりました」と話す。

さらに、活動班長の吉田有希菜さんが「正確な実験結果を積み重ねるなかで、『なぜこの種類がこの場所に生えていたのか』といった、新たな疑問点を考えられるようになりました」と言うように、研究者として着実に成長してきた。活動は4月から新2年生に受け継がれ、新たな研究者の卵たちが「タンポポ研究の空白地帯」に挑むことになる。（令和元年度プログラム助成）



●実施担当

今井丈暁 教諭

●活動のモットー

まずは、やりたいことをやりたいたけやらせる。そのうえで、生徒自身が真剣に取り組んだことが地域に貢献できるようになると、最高です。

学校概要



校訓は「至誠一貫」。バドミントンやアーチェリーの強豪校であるほか、書道部や美術部も全国高等学校総合文化祭の常連だ。

設立：1980年
生徒数：673人

所在地：岐阜県大垣市中曾根町大群147-1



研究者の卵たち

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索